

# KDKニュース



## KDK三つの原則

1. 開拓伝道であること
2. 教会を建てあげること
3. 聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

## 国内開拓伝道会

発行人 中島秀一  
〒352-0011  
埼玉県新座市野火止4の8の28  
電話 048-202-1500  
FAX 048-202-1501  
振替 00140-6-57493  
No.128 2021年4月

## 「この町にはわたしの民が たくさんいるのだから」



KDK委員 大嶋 重徳

「ある夜、主は幻によってパウロに言われた。『恐れないで、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。』」

（使徒十八・九一―一〇）  
学生時代に信仰生活を歩んだ教会は、駅前のテナントを借りて始まった小さな開拓の教会でした。アメリカからの宣教師と、その後迎え入れた伝道師と、信徒一〇名ほどで一生懸命開拓伝道に仕えました。一緒にお昼ごはんを食べ、夜の祈祷会で祈りあい、駅前のトラクト配布を熱心に行いました。僅かなメンバーでしたが、精一杯ささげてそのテナント料を支払い続けました。そしてその小さなチャペルで私の親友が信仰を持ち、洗礼を受けました。しかしそれから一〇年後、そのチャペルは閉鎖することとなりました。この決断は、教会にとって大きな痛みとなりました。私にとっても大きな失望ともなったのです。

私は今、埼玉県川口市にある教会で牧師をしています。五十七年前に開拓伝道によって始まった私達の教会は、これまでに同じ市内に一つ隣の市に一つと、二度の開拓伝道をしてきました。どちらの教会

も今は土地を取得し、牧師を招聘し、経済的に祝福されながら伝道が継続しています。先代の牧師を中心に、二回とも数千万円レベルの銀行借入れをし、開拓伝道にささげてきた教会です。「次はどこに開拓をしましょうか？」と教会で当たり前のように発言する教会の牧師に今、私は着任しました。

しかし戸惑いの思いが頭をよぎります。今までも何度も考えました。学生時代のあの開拓伝道は無駄であったのかと。しかしやはりそうではありません。私と私の友人はあのチャペルで沢山愛されました。あのチャペルでなければ、親友は信仰を持つことはなかったでしょう。そして今に至るまで、信仰を持ち続けることは出来なかったでしょう。あの少し切ない開拓伝道を思い出す時、「この町にはわたしの民がたくさんいるのだから。」という神の言葉を思い起こします。教会員みんな不安な思いを抱えながらも、沢山の時間と献金と労力をささげました。何より沢山祈りました。京都にある大学のそばの場所に、「わたしの民」と呼ばれる失われた魂がいることのチャレンジを受け、神の言葉に精一杯従った教会での経験は、私を伝道者へと、牧師へと導いてくれたのです。

再び開拓伝道に出ていきたいと願っています。神様が「沢山いるわたしの民」と呼ばれている魂と出会うことの出来る開拓伝道へと踏み出していきたいのです。KDKの働きを通して、皆さんから多くのことを教えていただきたいと願っています。

（鳩山福音自由教会 牧師）